

会 議 録

1 会議名

平成 29 年度第 5 回高土区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 地域活動支援事業（公開）

- ・ 課題等の洗い出しについて

(2) 自主的審議（公開）

- ・ テーマの設定について

3 開催日時

平成 29 年 8 月 30 日（水）午後 6 時 30 分から午後 8 時まで

4 開催場所

高土地区公民館 2 階 中会議室

5 傍聴人の数

1 人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：青木正紘（副会長）、飯野憲静（会長）、飯野正美、金子和博、小林トシ子
建入一夫、樋口義昭、日向こずえ、細谷八重子、横川英男、横山とも子

（欠席 1 人）

- ・ 事務局：中部まちづくりセンター 山田センター長、野口係長、田中主事

8 発言の内容（要旨）

【田中主事】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【飯野会長】

- ・ 挨拶

【田中主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条 1 項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【飯野会長】

議題（１）「地域活動支援事業」の「課題等の洗い出しについて」事務局に説明を求める。

【田中主事】

- ・資料No.1 により説明

【飯野会長】

今の説明のとおり協議を行う。キャンドルイベントについて、川上善兵衛の生誕 150 周年に向けて行ってきたが、高士地区としても 150 周年事業を来年 1 年間かけて行っていく。キャンドルイベントもその事業の一環ということで、事業の詳細について、高士地区振興協議会の会長でもある青木副会長から話をお願いする。

【青木副会長】

先日、生誕 150 周年の打ち合わせがあり、今回初めて雪まつり実行委員長からも出席いただいた。善兵衛さんの顕彰という目的に進んでいくには、協力を得なければいけないことが非常に多いということで、岩の原葡萄園の社長からも出席いただいた。雪まつり実行委員会の事業をありがたいことだと言われて、特にマスカットベリーA の色の花火は非常によかったということだった。今回もマスカットベリーA の 90 周年であり、その色を花火で表したいということで、是非一緒にやっていきたいということだった。今回の提案の中でいろいろな事業があるが、前向きに捉えていて実行委員と詳細に打ち合わせをしたいということだった。

【建入委員】

私は、会社の内部の人間であり、気にかかっていることがある。予算の話があったときに、150 周年記念の話で、地域と雪まつりのほうから会社にお願いの話があったはずだと発言した。すると、花火等のお金の具体的な話はなかったということだった。その辺はどうなっているのか。

【青木副会長】

計画が詰まっていない状態で、出席していただいたので具体的な話はされていない。地域活動支援事業の提案の中で花火分を減額し、採択したが、会社と実行委員会までどこまでできるのかは今後検討していく必要があると考えている。

【建入委員】

予算の時期なので、早くストレートにきちんと行っていただかないと、予算が取れなくなる。

【飯野会長】

花火は金額だけが先行している。1万円のを50発あげるのか、50万円のを1発あげるのか、具体的なものが一切ない。50万円でどのような花火をあげたいのかが分かれば、どうするかが決まってくるが、具体的な話が出てこないのである。

【建入委員】

予算の限られた時期のなかで早く伝えないと、間に合わない。

【青木副会長】

予算を要求する締め切りはいつか。

【建入委員】

9月10日ころである。概算は固まっているので、内部でどうやりくりするかになるため、かなり制約はある。

【飯野会長】

中嶋委員長の話だと、冬の花火は寒いので長くはやっていられないと言っていた。前回のフリートークでも雪まつりを続けていくには、今の実行委員会だけでは難しいだろうという話になったので、対応策も皆さんで話合っただけだと幸いだと思う。

【横川委員】

今の実行委員では継続していくのは難しいという話は、今の実行委員会の人たちの意見なのか、全体的に見た意見なのか。そこをしっかり見ていかないと、道筋をつけられないのではないかと。

【飯野会長】

そこら辺がはっきりしていないのである。一度、実行委員と話し合いをしたが、その時も実行委員が直接協力をお願いすることはなかった。我々から声をかけて手伝うといっても、あまり反応がよくなかった。その辺が、自分たちでやりたいのか考え方が違うのではないかと思う。

【金子委員】

実行委員会の会議に出たが、地域住民から協力していただくこととして、キャンドルを並べていただくことだけは決まっている。それ以外の計画は、煮詰まっていない。

委員長は、生誕 150 周年を目指して結成した組織なので、3 年で委員長を外させてもらおうという意向である。また、他にも 3 年で実行委員会を辞めたいというメンバーもいる。継続していくためには、新たに数人入っていただかないと無理である。8 人では回らない状態なので、来年度はどうなるか分からない状態である。

【青木副会長】

その辺が非常に心配なので実行委員の人と話をしたときに、計画をブレイクダウンするようにお願いしたが、ほとんどできていないような状況であった。実行委員の中で会議がもたれた形跡がなく、心配している。

【金子委員】

提案が終わったあとに、課題の洗い出しということを行った。今回は皆さんで顔合わせをしたときに内容の話が出てこなかった。実行委員会で打ち合わせをするという話はなかったし、具体的な話をするということもなく、ただ顔合わせというかたちであった。その時に花火の募金のお願いという話で、集まって話をするとき青木副会長も集まったと聞いている。

【青木副会長】

附帯意見がついていたので、それを兼ねて前回同席した。その中で、クールダウンして計画を具体化してもらえるように伝えようとしたが、なかなかそのような状況ではないのかもしれないと心配になった。

【金子委員】

半年先の話なので、少し早いかもしれないと思う。

【青木副会長】

予算の話もあり、個人的なお願いでは難しいので、段取りとして話をしなければいけないはずである。

【金子委員】

それは昨日出た話なのか。

【飯野会長】

花火の話も具体的な金額の話はないが、花火の金額は減らしたということであった。また、岩の原葡萄園側として蔵コンサートについても、過去に行ったことはあるとのことだが、それは独自でのことで今は蔵の状況も違うとのことだった。今は樽が並んでいるものを整理しなければいけないし、企業側としては準備が必要なので、先に具

体的な計画がないと難しいのではないか。

【青木副会長】

そういう状況なので、中で決めてもらいたい。

【金子委員】

早めに会議を開きたいと思う。

【飯野会長】

今回 150 周年で終わりにするのではなく、続けて行くためには、実行委員の皆さんだけでやっていくのは大変だと思うので、お手伝いをする事になった。高士まつりも以前は高士地区商工会が行っていたが、商工会だけでは大変で止めるという話になった。それから高士地区振興協議会が主体となって開催することになり、高士まつりを続けてきた。相手が駄目にならないうちに手を貸して、なんとか継続できる方向がよいのかなと思う。

相手から手を差し伸べてこないのに、こちらから手を差し伸べるのもどうかという話もないわけではないので、どちらがよいのかと思う。

【横川委員】

花火の資金等の話では、もうタイムリミットもすぐそこまで来ているなかで、そのような話だと既に手遅れになっている気がする。実行委員の考え方で、各町内にキャンドルを置いていただくという話がされたが、牧区や大島区は、バケツ等で自分たちが作っているはずである。バケツ等で作るのを協力してもらいたいのか、道具を置いてもらう協力の仕方なのかが分からない。長年やっていれば別だが、まだ 3 年目なので、事前に十分に準備をしていかないと周知も徹底できないし、手遅れになると思う。

【金子委員】

雪の状況にもよるが、雪行燈は雪があれば作る。雪がなければ、ペットボトルを使用し、ペットボトルの準備も毎年 3,000 個くらい用意している。雪の状況次第になるので、町内の人に雪行燈を作っていただくかどうかも分からないので、その時まで分からない。

【青木副会長】

確かにそうかもしれないが、基本的な計画だけはしっかり立てておかなければいけないと思う。そのうえで、あとは雪次第でというのは仕方ないと思うが、基本的な計画だけはしておいたほうがよいと思う。実行委員長にも早めに計画を立ててほしいと

伝えておいたし、花火については予算の関係が差し迫っているのです、どの程度の規模や金額で考えているのかを話し合ってもらいたい。その他のものは、計画ができていれば町内としても協力するので心配はいらませんが、花火だけ詳細を決めていただきたい。

【飯野会長】

各町内に置いてもらうということだけでなく、各町内も一緒に作ってもらうという感覚を大切にして皆で一緒にやろうという感覚にしてもらいたいと思う。

【横川委員】

ペットボトルにしても雪行燈にしても作り方を町内に回し、1戸について2個ずつ作ってもらうように要請すれば、住民も自分たちも参加していると認識ができるのではないかな。

【飯野会長】

キャンドルについては皆さんいろいろな意見があって、まとめるのは難しいとは思いますが、相手がここにいないのに勝手にやり方を話合うこともできない。

【横山委員】

この前集まったときにも話をしたが、花火は冬だから夏みたいに見てられないということもあるが、プロの花火屋がいるので予算をどのくらいでできるのかをまず見積もってもらうことが必要だと思う。予算の関係を考えると、早急に具体的に花火屋さんに聞かなければいけない段階だと思う。

また、事業計画をきちんと立てて、具体的なことが見えてくると、なんとなく皆さん安心すると思う。正直、皆さん遠慮しあっている気がする。こちらとしては手伝いたいけど、向こうとしたらどうなのか。お互いの意思疎通ができていないのも遠慮し合っているからではないか。最終的には一番実行委員が大変なので実行委員が司令塔として動くには、お互いの要求を伝え、細かく計画を立てていったほうがよいと思う。事業計画がないと皆不安なのではないかと思う。

【小林委員】

昨年の花火の予算はいくらか。

【金子委員】

記憶が確かであれば、30万円くらいだと思う。この金額でお願いしたいということで花火屋さんに依頼をした。川上善兵衛さんなので、葡萄色の花火を主に上げていた

だいた。写真としては葡萄っぽく撮れたと思う。

【横山委員】

今年は150周年ということのを伝え、どのくらいの金額になるのかを聞けば、見積もりは出してくれるはずである。

【金子委員】

見積もりも出してもらえし、こちらから金額を指定してやってもらうことも可能だとは思う。本当に打ち合わせがないので、はっきりしたことが言えない。

【飯野会長】

手伝ったほうがよいのか、手伝わないほうがよいのかの意思の疎通がないのである。

【横川委員】

採択されたときに、附帯意見が付いていたはずである。いろいろな協議団体と協力し合ったほうがよいという附帯意見を実行していなかったということになると、何のための附帯意見だったのかということになる。半年あるからではなく、人に言われる前にやったほうがよいのではないか。

【青木副会長】

中嶋実行委員長に今の意見を伝えて、できるだけ早くできる措置をしていただき、進められるようにするのが一番だと思うので、よろしく願います。

【金子委員】

分かった。

【飯野会長】

これで、キャンドルイベントについては終わりにする。「2. 新規事業について」は、大きい金額を申請する団体があるために新規事業が入り込めないとのことだが、本来は地域の皆さんが考え、提出してよいと思う。今までも大きい金額だからといって優先してきたわけではないのだが、委員に意見を求める。

【横川委員】

毎年度大きい金額を申請する団体があるため、新規事業が入り込めないということだが、大きい金額の事業が提案されるかどうかは分からない。本来ならば自分たちがやりたいことを、どんどん出すべきであり、その中から精査していろいろなものが議論されてくる。最初から出す気のない人たちが、言い訳で大きい金額があるから出せないというのではないか。本来であれば、そういうことを跳ね除けてでも自分たちは

こういう事業をやりたいということを言い通さないといけないと思う。新規事業が入り込めないというのは、言い訳だとは思う。

【飯野会長】

過去にも桜の手入れの事業は金額が大きかったので、3年かけてやってきた。また、防災に関してもそうだが、最初から優先的に大きな事業が入るから出してもだめだということにはなかった。我々としては、このような風潮があるということは地域活動支援事業の周知が徹底されていなかったということも一つの要因かもしれない。

【飯野委員】

地域ごとに公民館等で地域の役員等が集まり、地域をこういうふうにしたいというようなことが吸い上げられると先ほどの桜の堤防の話のように事業として話が出てくるのかなと思う。ただ、地域活動支援事業の募集開始の回覧だけでなく、各町内からの意見の吸い上げがなされれば、今後につながるのではないかな。

【横川委員】

私の町内会でも地域活動支援事業で何か皆でやらないかという話をしたりはしているが、意見もなかなか出てこない。これをやるので、協力してほしいと言えば、協力はしてくれるかもしれない。皆さんも自分たちの地域で町内会長に話をすることはできると思う。そこで提案が生まれるかどうかは別として、町内の人にもそういう意識を持ってもらうことが大切である。ここには14町内全ての人がおられるわけではないが、自分の町内を何とかしようということを話されればよいと思った。

【飯野会長】

新規事業についても、各町内だけでなくてもよいので、それぞれ皆さん自身が来年度の地域活動支援に向けて準備をしてもよいのではないかなと思う。次に「3.減額採択の方法について」、委員同士の見極めや意思の疎通が必要だと思う。

【建入委員】

今年の減額の方法論としては、結論的に会長、副会長の提案に基づいて決まったという認識を皆さんされていると思う。その時の説明が理にかなっていると思ったが、微妙なさじ加減だということはある。基準を覚えていないが、非常によかったことは覚えているので、その記録を残しておいて基準にしたらよいのではないかな。

【金子委員】

今年度を実施した津有区地域協議会の審査の様子を見てきたが、正副会長の意見が

採用されているのだが、津有区は上から細かい数字を減額していた。担当者にも確認しながら減額している気がした。津有区は順位が上のほうでも減額しているし、正副会長案をたたき台として、議論するかたちでよいと思う。高田区も見に行ったが、採点の点数のみで下の順位のもの全て不採択で残金は2次募集なしというやり方である。そのやり方は高土区ではやらないほうがよいと思う。

【飯野会長】

それぞれの区単位で採択方法が違うので、微妙なところはある。

【横川委員】

今年、私が出した提案が減額されたが、高土区の人はやさしい人なのだと思う。協議会委員も減額するが今回はこれで事業をやれないかというやりとりがされるので、提案者側も減額されても、仕方ないと思える。

【飯野会長】

次は、「4. 学校備品」の関係は微妙な部分である。基本的には、公の施設で市や県の施設のものは地域活動支援事業の対象外とするのだが、学校備品は市の備品なのか、PTAの備品なのかが、はっきりしない。今回採択したが地域活動支援事業としてできるものなのかどうか、委員に意見を求める。

【建入委員】

私は学校の備品なのか、地域の備品なのかが割り切れないと思う。

【横川委員】

割り切れない部分はあるが、子どもたちのことを考えると、割り切らざるを得ない。

【建入委員】

学校にあるのになぜ地域のものなのか。学校の備品は市で面倒をみるのが本来の姿だと思う。

【飯野会長】

市が揃えるべきものなのか、地域で揃えるべきものなのかという線引きがはっきりしていない。

【横川委員】

その辺がはっきり分かれば、納得できるのか。

【建入委員】

そうである。

【横川委員】

今後、説明や確認していただくことが大切だと思う。

【建入委員】

次の協議会委員も同じようなことにジレンマを感じると思う。

【飯野会長】

古い話だと、高士小学校のプールの脱衣所は、プールを作ったときにそれぞれの学校から水着で来るのもかわいそうだからということで、地域で脱衣所を建てた。しかし、それがいつの間にか市のものか地区のものかというぶり返しの話になり、雨漏りしたので市に直してくれと依頼したら市で建てたものではないということがあった。地域で建てたことはよかったのか、最初から市で働きかけて建ててもらったほうがよかったのか。また、働きかけても無理だったから地域で建てたのだが、今では古くなり物入れになっている。建てたが維持管理は地区でできなかったのも、手入れもできていない状態である。

【横山委員】

他の地区ではそういうことはないのか。

【田中主事】

春日区では小学校の金管楽器を後援会で購入する事業があった。ジレンマを感じるような提案は、他の区でもある。現在は委員の判断に委ねている状態である。

【横山委員】

本来であれば市の予算を取らなければいけないことだとしたら、そのフィードバックはあるのか。

【野口係長】

学校に関わる備品等の提案は、教育委員会に所見を求めている。楽器については義務教育で用意する部分ではないと判断している。市で用意するものではないので、後援会が主体となって整備している。後援会の備品のままのところもあるだろうし、後援会が市に寄贈して市のものになっているものもある。今時点では、市が整備するものと判断されていない。

【建入委員】

雄志中学校の太鼓も名前を書くような話もあったが、お金の出所では分けはできると思う。修理とかまで支援事業で持たなければいけないのかという議論になる。寄

贈というかたちで学校なり市に渡すならば、名前の必要性も特にいらなないかもしれない。寄贈となるならば地域からのものとなる。

【小林委員】

金管はコンクールがあるが、学校の代表になるわけだから、学校のものになるのではないか。太鼓は地区のものでよいが、金管は学校のものだと思う。

【飯野会長】

教育委員会での整理は決まっているとのことである。

【横山委員】

市のほうで明確にしてもらったら、よいと思う。

【山田センター長】

自治・地域振興課でも課題として考えている。学校備品に関しては学校側から教育委員会に要求を出して、市の全体予算の枠の中から優先順位を付ける。地域の教育の要望に対して予算が追いつかない状況である。市でも線引きが曖昧になっているが、現段階では、採択は協議会委員の判断に委ねられている。矛盾を感じられているかもしれないが、今後の課題として取り組んでいきたいと思っている。

【金子委員】

高士区と諏訪区と津有区の3区にまたがる提案があったが、例えば、高士区だけが不採択にした事業がある場合に高士区の子どもに太鼓を与えないという話が仮にあったとする。そしたら太鼓は次回から受付できないことにしないと、一部の区だけが不採択や減額ができないことになる。もしもの話だが、そういうことが行われたら問題になると思う。そういうことに対策や地域活動支援事業の要綱に記載されていればよいと考えるため、要綱にそういったことを記載していただきたいと思う。

【山田センター長】

それも課題の1つであり参考意見として伝えておく。

【横川委員】

市でも曖昧なところがあるので、そこを我々がどうするかが重要である。高士区で減額された場合に、市としてきちんと対応しないといろいろな問題が出てくると思う。諏訪区と高士区と津有区の会長さん同士でよく話し合っていたきたい。

【金子委員】

雄志中学校区の3区合同で提案があり、高士区だけが減額だった場合は、どのよう

な問題が出るか。

【横川委員】

どのような問題が出るかは、ここでは分からないと思う。

【金子委員】

横川委員は「子どもたちのために」と熱く感情論で言っていたので、そうなると採決のときに減額できないと思う。

【横川委員】

自分たちが子どもたちをどのような過程の中で見守っていくかという部分を考えて、その辺のところも踏まえていかないといけない。

【金子委員】

その説明がまさに感情論である。それがあから、どこも減額できない。

【飯野会長】

今話題になっているのは、3区に関わる雄志中学校のことである。事前に3区の会長に事前に了解を得てから提案を提出しないとうまくないのではないかと。

【横川委員】

確かに子どもたちのためと言われると、保護者や大人としては一番痛いところを突かれることになる。感情論を度外視しても、難しい部分もあるのでその辺をどうするかというのにも必要になってくると思う。

【横山委員】

市の方針である程度のものが出てくれば、3区にまたがるものももう少し精査できるようになるのではないかと。

【金子委員】

何年、太鼓を買い続けるのだろうか。来年も来ると、何十年と来るのではないかと。

【横山委員】

法被や他の団体のもものも、備品関係は全て同じであるが、本当に地域活動支援事業はそういうもののためにあるのかと思う。どこの地域も備品の購入が多いのも、地域活動支援事業の課題だと思う。

【金子委員】

前々回は4台の太鼓を購入したが、今年は同じ金額で8台の太鼓だった。この金額

なら通るという感覚で提案していると思う。

【山田センター長】

地域活動支援事業は住民が主体となって行う事業に対する補助金なので、市の方針として区別をつけてしまうと市の予算と変わらないような感じになり、制度として難しいと思う。課題として出てきているので、地域協議会会長会議のときなどに、各区の課題を洗いざらい出し合っていて、より良い地域活動支援事業にしていくことが大切だと思う。出していただいた意見は今後の参考にさせていただく。

【飯野会長】

雄志中学校は3区にまたがって応援しているので、こういう話が出てくるが、他の区では中学校を応援しようという雰囲気ではないのである。

次に「自主的審議（2）テーマの設定について」事務局に説明を求める。

【田中主事】

・資料No.2により説明

【建入委員】

今の説明でここに記載されているのは、前委員が提案されたものなのか。

【田中主事】

前委員が協議した課題等である。

【建入委員】

昨年度、我々が意見を言ってきたことが何故ここに加味されていないのか。

【田中主事】

この資料については、皆さんがテーマ設定する際に参考にさせていただきたいと思い、前期委員はこのように決定してきたという参考資料として提示した。1月に実施した「高士の未来づくり懇談会」で出た課題等も加味していただき、テーマ設定を決めていただきたい。

【飯野会長】

当初、今回の議題は「高士地区の若手市職員との意見交換会」というかたちで行おうとしたが、市議会定例会が始まり職員は議会対応ということで、今回はこのようなかたちにさせていただいた。

若い市職員は高士区をどのように思っているのか、また我々にどのようなアドバイスをしてくれるのかという議題の予定だったが、やらなければいけないと思っている。

特別意見がなければ、今回は終了したいと思う。

(発言なし)

その他、次回会議の日程を決める。

— 日程調整 —

- ・ 次回の協議会：10月5日（木）午後6時30分から
高士地区公民館 2階 中会議室
事務局に連絡を求める。

【田中主事】

- ・ 雄志中学校の生徒との意見交換会の日程確認

【飯野会長】

- ・ 会議の閉会を宣言

【青木副会長】

- ・ 閉会の挨拶

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690（直通）

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。